

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200114		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)		
所在地	〒602-8449 京都府京都市上京区中筋通大宮西入横大宮町219-1		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JjgvsyoCd=2690200114-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅渡町83-1「ひとまち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和6年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人一人の尊厳を尊重し穏やかで温かい輪の中で「自分らしく、たのしい」生活を送っていただくよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたのしい家西陣は公園や神社仏閣、昔からの住宅が立ち並ぶ閑静な住宅街の中にあります。このグループホームでは「～自分らしく、楽しく、生きる～」をビジョンとして、入居者やスタッフがともに楽しく生活できることを目指されています。入居者が、今迄の生活で経験された楽しかった数々の事を、入居者の希望を聞いて、実現されています。例えば、歌の好きな入居者は「たのしい家きぬかけ」でカラオケを楽しみ、お正月は干支にちなんだ「辰達磨」をみんなで作り、「おせちを食べ」「かるた取り」や「ゲーム」を楽しまれています。また、夏の恒例行事は「西瓜割り」で、昔、海でした記憶がよみがえってきます。「節分の豆まき」や「土用の丑の日の鰻丼」、「水無月」など利用者が経験されてきた数々の記憶を引き出し、季節感も味わって貰っています。ドライブレクでは「京都市内を車で回り」、京都の懐かしい景色の思い出を、入居者とスタッフが一緒に楽しまれている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業としてのビジョンを作成し、それに基づき支援を行う、毎年見直しを行い、職員全員でビジョンを共有している。	法人経営理念に基づき、11月1日からの1年間を1期として事業所のビジョンを作成し、毎年、見直し各ユニットに掲示している。フロア会議では経営理念を読み合わせ、全職員が共有している。ビジョンに沿ってリハビリ体操や洗濯物たため、居室内の整理・整頓、外出レクなどをおこない、入居者の残存能力を維持し、能力低下を防ぐ支援をおこなっている。	2階フロア入口に「フロア目標 一日一回 大笑い!!!」が掲示されていました。面会に来られる家族にも一目でわかりやすくなっています。各フロアにも独自の「フロア目標」を掲示してはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行されたが、地域とのつながり促進には至っていない。	町内会の準会員であり、回覧板で地域の行事や情報を得ている。事業所はビジョンで、地域との交流を目指しているが、コロナ禍の中で交流までには至っていない。今年度はコロナ禍で中止になっていた事業所主催の秋祭りを再開し、地域の方に参加してもらえような取り組みを模索されている。地域の商店での買い物や地元のスーパーに発注して届けてもらっている。	秋祭りに地域の方の参加を促すために、ゲームや焼きそば、たこ焼きなどの参加チケットを配布するなどの取り組みを検討されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議事録を行政や地域包括支援センターへ配布しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催、コロナが5類になったことにより5月から対面開催を再開しました。	感染症5類に移行後、家族、老人福祉員、地域包括支援センター職員の参加で運営推進会議を対面開催している。議題は入居者の状況や事故報告、事業所の活動報告をおこない、家族からは「シルバーカーと歩行器の違い」の質問等がある。地域包括支援センターからは、「事故の対応や事故防止の対策への意見」や「人員が少ない中の対応に評価されている」案内と議事録は全家族とメンバーに交付し、行政には議事録を持って行っている。	会議に参加できない家族の意見をもらう工夫として、会議の案内状に意見記入用紙を同封して、面会時に意見箱に入れてもらったり、返送してもらわれる等で運営への参画してもらっては如何でしょうか。また、ヒヤリハットも頑張って収集されていますので、会議でも議題として挙げられることで、評価に繋がることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重大事故が起こった時などは都度の報告を行っている。	重大事故が発生した場合は速やかに事故報告書を提出している。地域包括支援センターで開催される地域ケア会議に参加し、行政との関係づくりに取り組んでいる。	行政の担当者との関わりを深めるため、運営推進会議の議事録や、秋祭りの案内状を持参されるなどで、積極的に取り組まれることを期待します。

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の社内研修はもちろん、全体会議や、フロア会議、日々の業務内でも話し合っている。	2か月に1回、虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、職員には議事録を回覧し事例検討を通じて身体拘束への意識を高めている。身体拘束の研修は年2回(4月・11月)に動画の聴講をおこない、研修報告書を作成している。利用者にはチョットマットと動きを止めるのではなく、「〇〇の間待ってもらえますか」と声を掛けるようにし、利用者の不安な気持ちや混乱時には職員が傾聴したり、管理者やケアマネジャーが話を聞くようにしている。職員の気になる言動には職員同士で、注意をしようとしているが、管理者が注意をする時もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の社内研修はもちろん、全体会議や、フロア会議、日々の業務内でも話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行っている。 現在、後見人制度を利用されている方がいないので、話し合いは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書と重要事項説明書の内容を全てお伝えし、ご本人様・ご家族様が納得されるまでご説明した上でサインを頂戴している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階玄関に「意見箱」を設置し、何時でもご意見を頂戴できる様にしている。 本社より送付で「お客様満足度調査」を実施している。	家族からの意見はケアマネジャーがパイプ役となり面会や電話で聞くことが多い。また、本社は「お客様満足度アンケート」を実施し、意見を集計して改善点は管理者に伝えている。家族からは「電話対応についての意見」が多く、運営に反映させている。利用者からは、食事のレクリエーションで「良い匂いのする物(焼きそばやすき焼き)を食べたい」との希望がある。利用者の食べている時のいい顔を想像して反映させている。	

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で意見交換し、対応が可能な事であれば直ぐに取り組むようにしている。本社宛に職員全員が提出できる「業務改善提案書」があります。	全体会議やフロア会議に管理者が参加し、職員の意見を聞く機会となっている。職員アンケートも本社で年1回おこなっている。「業務改善提案書」で職員の意見を直接本社に送ることができる。職員からの意見は「外食レクリレーション(寿司)」やベトナムの技能実習生による「ベトナム料理レクリエーション」「ハロウィン柄のドーナツ」の提案などの事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度(人事考課)や、チャレンジキャリア制度で職員さんの努力や実績を評価し給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、フォローアップ研修、部門別研修など1人1人がスキルアップが出来るよう取組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社との交流はまだ出来ませんが、5類へ移行されてからは、全てズーム開催だった社内会議も対面となり、管理者同士のつながりが出来つつある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に、ご本人様のニーズを導き、安心して施設生活を送れる関係を築ける様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に家族様のお困りごと等を出るだけお聞きし、施設生活に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時その時に必要とされる支援を見極め、サービスの提供に努めます。		

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業(洗濯物たたみ等)やレクリエーション活動を通し、より良い関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日頃の様子を、ご家族様と共有し、現状を知っていただく。面会や外出にもご協力し、ご家族様との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、知人の方との交流(電話やお手紙)にご協力している。	情報収集をおこない、可能な限り馴染みの人や場所の情報を得ている。家族の許可があれば、利用者の友人の面会を受け入れ一緒にお茶を飲みに行き、和裁の先生をされていた方は生徒が訪ねて来られている。利用者の知人などから年賀状が送られた場合は家族に渡し、対応してもらっている。歌が好きな人は同法人「GHたのしい家きぬかけ」に行きカラオケを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のより良い関係を目指し、座席等を考慮し、関係性構築を支援しています。必要時には座席の変更やテーブルの配置変更をする柔軟に対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常でのコミュニケーションを大切に、些細な事でも情報共有に努めています。ご本人様の意向を直接お聞きできない場合でも、表情や仕草から感じ取り、ご家族様と相談した上でご本人様の希望に添えるよう努めています。	フェイスシートやアセスメントで利用者の情報を共有し、日々の支援内容をタブレットに記録し、フロア会議で情報を共有している。利用者から「いい匂いがするものを食べたい」との要望で「焼きそばを鉄板で焼く」食事のレクリエーションを実施した。また、意向の把握の困難な利用者は表情や仕草から感じて、家族にも相談したうえで、本人の意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に今までの生活状況や、不安に感じておられる事を確認し、ご希望にお応え出来るよう努めています。		

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や管理日誌、医療機関を通して心身の状況把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットの計画作成者が中心となり、他職種間での意見調整を行い、チームとして質の高い計画作りに努めています。	3か月に1回モニタリングを実施し支援経過に記録している。ケアプランの目標、見直し時にはサービス担当者会議を開催し、医師や看護師、薬剤師には照会をもらい、利用者、家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。ケアの記録はタブレットに入力し職員間で情報共有をおこなっている。介護計画の見直しは基本6か月ごとに行っているが、更新時や利用者の状態変化時は随時見直している。	ケアの日々の記録が支援内容のみとなっていますが、利用者の表情やコミュニケーション内容などを記載することが望まれます。またそのことで、より良いアセスメント、介護計画が作成されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や管理日誌、連絡ノートを職員間での情報共有に使用している。個別ヒヤリングやフロア会議から情報を得てプラン見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズを把握し、検討することで柔軟な支援が行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、資源活用につなげたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に施設の協力医療機関が今までのかかりつけ医を選択していただいている。	本人や家族に契約時に主治医の説明をして、選んでもらい、全ての利用者が、月2回の訪問診療を利用している。週1回の訪問歯科もあり必要時に診察を受け、歯科衛生士による口腔ケアの支援も受けている。骨折などは家族同行で外科に受診している。体調不良時は施設看護師が、協力医療機関と連携をとっている。また、協力医療機関も24時間オンコールで直接、相談や指示が仰げる体制で、手厚い支援が出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が勤務しており、体調不良等があれば医療機関と連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は迅速な情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の説明を行っている。週末期には主治医、ご家族様を交えたカンファレンスを開催し、最良の支援を取組んでいる。	入居契約時に、「急変時・終末期における医療等に関する意向確認書」の署名をもらっている。終末期には家族、主治医、看護師、施設看護師、ケアマネジャー、総合施設長でカンファレンスをおこない、意向確認書で方針を決定して、看取りの介護計画を作成している。職員の看取り研修は年1回実施している。主治医、施設看護師は24時間体制で指示を仰げる体制であり、状況に応じては訪問看護の介入も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や事故時のフローチャートを作成し、発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画の作成、年2回の消防訓練を行っています。	併設の事業所と合同で年2回(夜間想定1回)火災時の避難訓練をおこなっている。・通報・初期消火・避難誘導の訓練をおこない、そのうち1回は消防署立会いのもと訓練を実施し指導を受けている。地震の訓練では消防署職員に、屋外は二次災害の危険から施設内で待機するように指導を受けている。災害時の水・食料を3日分備蓄している。	災害時には地域(町内会・学校・他の福祉施設)との協力体制が不可欠です。まず、町内会や学校での訓練への参加や、施設の訓練に地域の方の参加を要請する取り組みを検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の接遇研修を受講している。ご利用者様を説得するのではなく、受容と共感を持って接するように努めています。	年1回、接遇とプライバシーの社内研修(CTレーニングによる動画)を受講後、報告書を作成し管理者が確認をしている。排泄、入浴はタオルを掛けるなど羞恥心に配慮した支援をおこなっている。また、全介助の方の入浴時は居室で脱衣をして、大きいタオルをかけて、人目につかないようにして、風呂場まで行っている。利用者に対する言葉使いや態度は職員同士でお互いに不適切にならないように意識している。	

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、日常生活の中でご本人の希望を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転とならないように配慮し、「休みたい」と希望があれば居室で休まれたり等ご本人様のペースを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容や馴染みの化粧品の購入等、ご本人様の希望を尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のテーブル拭きや、食後の下膳が出来る方にはしてもらっています。	食事は給食業者から冷蔵、冷凍食品を仕入れ、各ユニットで温め提供している。利用者の嚥下状況により刻み食やペースト食にも対応している。ご飯は各ユニットで炊飯している。視野狭窄の利用者には主治医の指示によりワンプレートで提供している。食事のレクリエーションは月1~2回おこない、利用者と職員で焼きそばやお好み焼きなどを作っている。おやつは市販品が多いが、利用者とする手作りおやつの際は楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が確保できるよう、好きなコーヒーや紅茶を朝食後やおやつ時間に提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。 週1回の歯科往診で口腔内のチェックしてもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を元に個人個人の排泄パターンの把握に努めています。 カンファレンスにてオムツ等の必要性を検討しています。	トイレでの排泄を基本として支援をおこなっている。歩行不安定な利用者には手引き歩行や車椅子で介助している。利用者ごとの排泄の記録はタブレットで情報共有をし、失敗のないタイミングで時間調整をおこない支援している。施設看護師の在籍により、便秘の利用者には便がおなかのどの位置なのか聴診により、温シップやマッサージをしている。	

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳やヨーグルト等の乳製品を提供し便秘改善に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上、入浴していただけるよう予定を組んでいるが、その日の体調や気分が優れない時は翌日にする等、柔軟に対応しています。	入浴は週2回以上を基本としている。利用者の体調や気分により拒否がある場合は適宜、時間や日を変えて対応している。浴槽は一回ごとにお湯を入れ替え、掃除をして、足ふきマットも一人ずつ変えている。可能な限り同性介助に配慮し、シャンプー類は備え付けているが、希望の物があれば使ってもらっている。入浴剤の希望はないが、ゆず湯は冬至におこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な起床時間、就寝時間はありますが、お一人お一人に合わせた対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人にお薬情報があるので、職員全員が把握するようにしている。分からないことは薬剤師さんに確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前のテーブル拭きや、洗濯物たたみ等ご自身の役割を持っていただくことで充実した生活を実感してもらえる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は近場の公園までお散歩に出掛けました、また敷地内ではありますが、施設前のベンチに腰かけ気分転換していただきました。	近くの公園に出かけたり、桜、もみじの季節には「首途八幡宮」まで出かけている。施設前のベンチで外気浴・日光浴をおこない気分転換をしている。カラオケの設備がある同法人の施設に出向き、カラオケレクをおこなった。感染症5類に移行後は、利用者と家族との外出、外食も可能となっている。近所のスーパーが閉店し、移動販売の利用を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族様と相談し施設で管理しております。		

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット1(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もあります、特に制限は設けず、問題があればご家族様と相談し対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と一緒に制作した壁飾りや、季節の飾りつけ等、楽しくも落ち着きのある空間作りにも努めています。	リビングには利用者と職員とで季節に応じた手作りの作品を飾っている。各ユニットで話し合い設えているが、楽しく落ち着きのある空間を目指されている。テーブルの配置は余裕を保ち、利用者が動きやすくなっている。リビングは感染予防のため、窓を少し開けているが、空調により適切な温度を保っている。リビングの清掃は職員が朝と昼におこない、利用者は手すりを拭かれている。トイレ、浴室は職員が清掃・整理・整頓し清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し、いつでも何方でも座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使われている馴染みの筆筒等の家具をお持ち込みになったり、ご本人様にとって居心地が良く、安心して過ごしていただける環境作りを心掛けています。	毎日、起床時に職員が窓を開け換気、床のモップ掛けなど掃除をおこない、利用者と一緒に手すり拭きをする際、窓を閉めている。介護ベッド、マット、カーテン、照明、空調、クローゼットは備え付けで、馴染みの家具や写真が置かれ、利用者の安全な動線を考えて家族と一緒に設え、居心地よく暮らせるようにしている。リネンは2週間に1回、職員が交換している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室やトイレの場所が分からない方もおられるので、自室にお名前を貼ったり、トイレの場所を指し示す工夫をしています。		